



「楽しむ」ことを楽しもう

教頭 高橋 省子



今年度、本校は「特別支援学校就労・職場定着推進事業」の推進拠点校となっています。7月には卒業生の就労先事業所や関係機関をお招きして「職場定着対策会議」が開かれました。この事業は卒業後の職場定着のみではなく、中学部段階の職業教育の充実も目的の一つとなっており、本校の「キャリア教育」とつながるものです。

「キャリア教育」というと卒業後の就労に向けた学習と直結しがちですが、この「働く」の他に「暮らす」「楽しむ」という視点も忘れてはいけません。

「暮らす」は自分の身の回りのことができるようになることが基本ですが、卒業後の生活スタイルによって必要なことが変わってきます。一人暮らし、グループホーム、家族と暮らす、施設入所など暮らし方は様々です。自分ができるようになることよりも、できないことをどう他人に依頼するかが大切になってくる場合もたくさんあります。何をめざして、今、何を学んでいくかを学校とともに考えていきましょう。

「楽しむ」ことは、生活を豊かにしてくれます。「生涯教育」というと堅いイメージがあるかもしれませんが、スポーツや芸術など続けていける趣味をもつことです。「特にやりたいことがない、見つからない」という人もいるでしょう。学校では部活動や地域での活動など、在学中に様々なことを経験できる学習を行っています。例えば、県内の祭りや特産品を調べたり、学校周辺を歩き疑問に思ったことを質問したりする学習を行っている学級があります。学習の中で、新しいことを知る楽しさを知り、さらに興味が広がっていく人もいるでしょう。

子どもたちは見たり経験したりしたことの中からしか選択できません。子どもたちの経験をどれだけ広げてあげるかは、大人の役割になります。コロナ禍で外出しにくい面もあると思いますが、近場でかまいません、今まで行ったことのない場所へ行ってみませんか。外出しなくても、ご家庭の中でできる新しい経験はたくさんあるはずですよ。もちろんゲームは楽しいですが、それ以上に楽しいことがあることを知ることで、今の生活も将来の生活も豊かに広がっていくはずですよ。「楽しむ」ことに一歩踏み出してみませんか？



「第21回秋田県障害者技能競技大会 アビリンピックあきた大会2022」

7月15日(金)に秋田市文化会館で「第21回秋田県障害者技能競技大会アビリンピックあきた大会2022」が開催されました。本校からは「ビルクリーニング」に高3齊藤樹さん、高2佐藤悠世さん、「木工」に高2森田郁人さん、「喫茶サービス」に高3石山優佳さん、工藤彩楽さん、「パソコンデータ入力」に高3米谷悟さんが出場しました。この大会に向けて、時には放課後の時間も活用しながら日々練習を重ねてきました。結果は、「パソコンデータ入力」の米谷悟さんが金賞(秋田県知事賞)、「木工」の森田郁人さんが銀賞を獲得しました。惜しくも入賞を逃した生徒も、これまで培ってきた力を本番で発揮することができました。尚、今大会で金賞を獲得した米谷悟さんは、令和4年11月4日～6日に千葉県幕張メッセで行われる「第42回全国アビリンピック」に秋田県代表として出場する予定です。全国大会でも力を発揮できるよう、応援しています。



喫茶サービス部門



ビルクリーニング部門



表彰を受ける米谷さん

第1回 職場定着対策会議

7月21日(木)に本校を会場に「第1回職場定着対策会議」が行われました。この会議は、卒業生を雇用している事業所2社の代表者や雇用担当者、ハローワーク秋田専門支援部門関係者、秋田県特別支援教育課指導主事、県央地区特別支援学校進路担当者などが対面とオンラインのハイブリッド型で参加し、意見交換や協議が行われました。その中では、本校卒業生の職場定着の状況や事業所における障害理解に関わる実際、各校での取組が話題となりました。卒業後の支援のキーセンテンスとして、「仲間とのつながり」、「(生活・精神面での)家族の支援」、「卒業生自身からの思いの発信(夢、得意なこと、苦手なこと)」などが上げられました。

就労後は「仕事に取り組む力」だけでなく、自分の思いを伝える力や自分から仲間とつながる力、家族と相談できる力などの「働き続ける力」が大切であることを再確認しました。

今回は、11月に実施予定です。主な内容は「中学部段階からの職業教育の充実」となります。今回の成果を受け、「働き続ける力の基盤」を育むための実践報告やそれに関わる協議などを予定しています。

